



京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.252

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ

〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075) 744-3160

FAX (075) 744-3161

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara-gr.jp

https://www.kyotoohara.or.jp

2020年

9月

SEPTEMBER

円滑な入院へ判定早く

医療連携室の役割と現状

三橋室長に聞く

〇〇 思いに寄り添う退院調整 〇〇

京都大原記念病院グループの京都大原記念病院と京都近衛リハビリテーション病院では、日々、大学病院など急性期病院での治療を経てご紹介を受けた患者様がリハビリテーション(以下、リハビリ)に励まれています。全身状態が安定し、身体機能が回復に向かう「回復期」に集中したリハビリを提供し、退院後の生活が「その人らしい」ものとなるような社会復帰を支援しています。

その窓口として最初に相談を受け、ご紹介いただく医療機関や退院後の受け入れ先との連携推進に努めるのが「医療連携室(以下、連携室)」です。「和音」誌では室長の三橋尚志医師(京都大原記念病院副院長)に、基本方針や現状を聞きました。

連携室の基本的な役割は「入退院調整」にあります。入院時は紹介元の医療機関、患者様・ご家族、現場の間に立ち、円滑に入院できるよう必要な調整を行います。入院中は状態の変化や見通し、退院後の生活で課題となりそうなことを、ご家族や担当のケアマネジャーに情報提供しています。退院後の生活がその人らしいものとなるよう、チーム医療の一員として重要な役割を担います。医師、看護師、理学療法士、社会福祉士、事務職の総勢18名で構成され、京都大原記念病院、京都近衛リハビリテーション病院の2拠点で活動しています。



医療連携室について語る三橋室長

「入院可否の当日判断」。これが第一の基本方針です。基本的な流れとして、ご相談をいただいてから大きく5ステップ(次ページの図)を経てご入院となります。



やすらぎの家で

キンモクセイ 秋の始まりの花



開花時期は9月中旬から10月頃。道端から漂う甘く芳しい香りで散歩している人を楽しませてくれます。小さな花から漂う香りは何だか懐かしくもありますね。京都大原記念病院グループのやすらぎの家では、毎年満開になります。

(総務部 榎並宏之)

多職種で当日判定会議

患者様やご家族に安心感

このうち、医師、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーらが、安全にリハビリに取り組んでいただけるかどうかを検討し、入院可否を判断するのが「入院判定会議」です。必要な情報が揃い次第、すぐさま会議を行うことで先の方針を実践しています（通常は判断するまでに一定期間を要することが多い）。判定後、病棟と日程調整し、現在の食事形態の確認等をした後にご入院となります。

方針を少しでも早く決定することで、不安を抱える患者様やご家族に少しでも早く安心していただき、結果としてご紹介いただく医療機関の皆さまのご期待に沿いたいと考えています。

入院までのステップ



大原までは市街地から車で20分程度を要する地理的背景もあり、約20年前から医療連携を積極的に推進してきました。重視してきたのは、医師を中心とした顔の見える関係づくりです。当時から定期的な訪問による患者様の経過報告、症例を通じた勉強会、積極的な見学の受け入れなどの取り組みを重ねてきました。医師、看護師、理学療法士が専門的目線からコミュニケーションを重ねることで、専門的な関わりを強化してきました。

日々の連携において、高次脳機能障害をお持ちの方や認知症が進行されている方など対応が難しいケースもあります。その時も、提供いただいた情報を受身的に理解するだけでなく事前面談を行うなどして、できる限りの検討をしています。

私たちはこれまで顔の見える関係のもとで根拠を持って信頼関係を構築してきました。単に入退院支援に必要な情報をやり取りするのではなく、現場の「実際」を知っていただきながら築いて来た信頼関係は、間違いなく私たちの強みであると捉えています。

顔の見える関係を軸に

その人らしい 人生手助け

最近では新型コロナウイルスの影響もあり活動は最低限にしています。定期的な訪問などの取り組みや、退院支援における家屋調査や外出訓練も控えざるを得ない状況です。現場スタッフからは「家で練習してから退院させてあげたい。」と、歯がゆい思いをにじませる声も聞かれます。

しかし、このような状況にあってもこれまで築いてきた地域連携の関係性は全く変わっていないと感じます。現在の信頼関係を大切にしていきたいとお声も励みに、(入退院される)患者様の体調変



初めてオンラインを使って開催された症例報告会

化等は綿密に情報共有しながら日々の対応にあたっています。こうした連携をスムーズに進められていることに感謝しています。

世の中で大きな変化が起こっていま

新型コロナウイルス感染の情報が全国各地で伝えられる中、京都大原記念病院グループは2月25日より面会禁止とするなど、比較的早い段階から対策を講じてまいりました。厳しい基準での対応に患者様、ご家族、連携医療機関の皆様など各方面にてご理解とご協力を賜りありがとうございます。

私たちの責務は、患者様が安心して医療・介護サービスをご利用いただける環境を提供し続けることにあります。これま



京都大原記念病院
院長 垣田清人

コロナ対応、医療人の自覚持ち

での経験を活かし、単に制限を強化するだけではない対策を検討、実施してまいります。

職員一同、医療人として自覚を持ち、高い緊張感を持って「新しい生活様式」に照らした行動を徹底してまいります。引き続き、グループの方針にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

す。8月7日には、初めてオンラインで症例報告会を開催しました。このような工夫は今後も必要だと思います。

同時に、私はやはり顔の見える関係に勝る連携はないとも感じています。状況が落ち着いたら活動を再開するなど、今後も大切にしていきたい価値観です。

患者様に対しては、やはり目標や思いに沿った退院支援が重要と捉えています。時に患者様ご本人とご家族の思いに齟齬が生じる場面もありますが、そうした時こそ寄り添って良い支援につなげたいです。

患者様にとって必ずしも「自宅退院」がベストとは限りません。グループが展開する介護サービス事業とともに、チームとしてより良い提案ができるよう努めていきたいと考えています。

安心のサービスこれから

勤続30年 たどり来し道

京都大原記念病院グループでは毎年夏に勤続30年、20年、10年の職員を、永年勤続者として表彰しており、今年も7月3日に式を執り行いました。「和音」誌では勤続30年表彰を受けた2人の職員が思いをつづりました。

鹿児島を離れ就職した頃は、毎日寂しく、実家への電話と先輩や同僚の存在が心の支えでした。仕事と学業を3年間両立し正看護師となりました。京都大原記念病院で25年間働き、訪問看護ステーションと大原在宅診療所を兼任の後、現在のライフピア八瀬大原I番館に勤務しています。高次脳機能障害を有する患者さんや在宅サービスを駆使して過ごす方、治療を望まずライフピ

この度は勤続30年表彰をいただきましたこと、大変光栄であり誠にありがとうございます。

京都大原記念病院グループ(当時は大原記念病院)と私の出会いは1989(平成元)年12月です。長期臨床実習でお世話になった先生から「関西に出てこないか」とお誘いを受け、五つの病院を見学させていただきました。

両親通して高齢者を理解

川勝久美子

ライフピア八瀬大原I番館
看護師



永年勤続の表彰式に臨む(前列右から川勝さん、高岡さんら)

アで最期を迎える方々に会いました。その場所ではか学べないことが多くあり、これらの看護すべてが私の財産となりました。

子育てとの間で葛藤

結婚して出産、復帰してからの子育てとの両立は時間に追われて毎日があっという間に過ぎていきました。我が子のけいれん発作や肺炎、ひざの手術など心配が尽きず、役職に就いていながら休むことも多くありました。役割が果たせないことへの葛藤と子供達の看病との間で退職を考え悩む辛い時期もありましたが、成長すると部活動の応援など貴重な経験もさせてくれました。

ある日、母が切羽詰った声で電話をかけてきました。老老介護で頑張りすぎたようです。子供のことばかりに追われて帰省しておらず、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。心から実感した高齢者の現実でした。両親の環境を知り、高齢者の気持ちや必要なことを理解できるようになりました。

歲月重ねて心豊かに

ライフピアでは、人生の大切な時間を過ごしていただき看護取りを行っています。家族・社会背景、その方が大切にしていることは千差万別。経過も様々です。ご入居者やご家族の思いを尊重したケアを行っています。一番そばにいる私達の関わりがその方の生き方に大きな影響を与えます。だから、責任を持ってこれからも私にできることを一生懸命に頑張ります。私は30年の時を経て脳や体は老化してきましたが、看護をするにあたり心は豊かになってきたように思います。これからもご入居者と職員の健康を守っていきます。

高岡佐和子

京都近衛リハビリテーション病院
理学療法士

リハ室の広さに驚き

当時はリハビリテーションの知名度も低く、多くの病院が狭いリハビリ室に1~2名のセラピストという中、当院には理学療法士、作業療法士合わせて9名も在籍し、広い訓練室(現在のPT室+院内デイケア)という環境にとっても驚いたのを覚えております。90年に入社し気づけば30年間、児玉博行理事長を始めたくさんの方々に助けられ仕事を続けることが出来ました。

入社当時は大原記念病院しかありませんでしたが、91年に博寿苑、97年に大原ホーム、2001年におおはら雅の郷...18年には私が現在勤務する京都近衛リハビリテーション病院が開設されました。近衛には立ち上げから関わり、いろいろな経験をさせていただいています。近衛のリハビリ責任者として至らないところばかりですが、患者様に「近衛に来て良かった」と思っただけのようスタッフ一丸となって取り組んでいるところです。

看護の涙が原点に

医療事情がめまぐるしく変化してきた30年間、病院、老健、THP、採用担当etc.、いろいろなことを経験させていただきました。1年目に担当患者様が初めてお亡くなりになられた時に流した涙は、今も私を初心に戻らせてくれる大切なものとなっています。

これまでも、これから先も常に走り続ける京都大原記念病院グループの動きに乗り遅れないよう、年齢の壁を越え、他職種と協働し、グループに貢献できるよう尽くしていきたいと思っております。今後とも変わりないご指導・ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。

「来て良かった」を励みに

皆さんご存知の通りヒトは人生の3分の1の時間を睡眠に充てると言われています。睡眠の質や量は生活習慣病などの病気と関係することが分かっており、厚生労働省からは「健康づくりのための睡眠指針2014」が出され、各種メディアでは睡眠に関する特集をよく見かけます。

睡眠は、概日リズムと睡眠の恒常性維持機構の二つのメカニズムで主に制御されています。

概日リズムは体内時計とも呼ばれ、すべての生物で見られるほぼ24時間周期の睡眠や体温・血圧などの生理学的変動をいいます。ヒトの体内時計の周期は約25時間のため、光や運動・食事などの同調因子を介して1日24時間のリズムに体内時計を同期させています。特に太陽光による昼夜の区別は重要であり、網膜から入った外部からの光情報を脳内の体内時計の司令官である視交叉上核が処理し、松果体から分泌されるメラトニンという睡眠ホルモンを制御してリズムを調整します。通常、体内時計の働きで朝に光を浴



睡眠のメカニズム



睡眠のリズムを保つためには朝日を浴びることが大切

京都大原記念病院

古川 ^{ふみ} 迪子 医師

びてから14～16時間経過すると深部体温が低下し、メラトニンの分泌量が増加して眠くなります。つまり朝に光を浴びる時間でその日の眠りやすい時間が決まります。休日に朝寝坊をすると

夜にいつもの時間に寝付けないのはこのため、決まった時間に起床することが大切です。

また、スマートフォンやパソコンなどの液晶画面からのブルーライトや照明から出る強い光はメラトニンの分泌を抑制し、脳が昼間と勘違いして眠りにくくなります。就寝前にはこれらの機器の使用は控えて、室内照明も明るくすぎないようにしましょう。

睡眠の恒常性維持機構は、目覚めている時間と脳の仕事量に比例してアデノシンなどの睡眠物質が徐々に脳に蓄積し眠気を引き起こすシステムです。コーヒーや一部の栄養剤などに含まれるカフェインはこのアデノシンの受容体をブロックするのでアデノシンが蓄積していても眠気を感じにくくなります。寝る前にはカフェインを控えることも大切です。

睡眠で困ったときには睡眠日誌をつけ、御自身の生活習慣を振り返ってみてください。意外な所に寝付きを悪くする原因が潜んでいるかもしれません。また、睡眠の問題を抱え込まずに病院に相談することも大切です。

8月、待望の営業再開 大原健幸の郷 コロナ予防、万全期す

高齢者共生型まちづくり事業多世代交流拠点「大原健幸の郷」が多くのご支援のもと、8月2日より営業を再開いたしました。当初、3月にオープンする予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い関係の皆様のご安心と安全を最優先し、やむを得ず休館させていただいておりました。ご理解とご協力をいただき、関係の皆さまに御礼申し上げます。

当館は「スタッフの体調管理」「人数制限」「換気の徹底」等を継続し、感染予防対策に最大限努めてまいります。ご利用の皆さまにも、来館時の「マスク着用」「手指消毒」「体温測定」など引き続き、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。最新情報は当館ウェブサイト等でお知らせして参ります。

今後当館は、公的な立場において京都府民の皆様への介護予防に長年携わって参りました井端泰彦館長のもと、「運動・食」をテ



地域の関係者向けに開催した事業説明会の様子(8月1日)に「健康増進・フレイル予防」、「多世代交流」をテーマに「大原コミュニティの活性化」を目指す内閣府・京都府の共同補助事業として地域住民の皆様のQOL(生活の質)向上を目指して取り組んで参りますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

次号で、開館に先立ち開催された地域関係者向けの事業説明会の様子等をご紹介します。

52チームが参加 セーフティラリー

本年も7月1日から9月30日の3カ月間「第38回交通安全マナーを高める事故防止コンクール(セーフティラリー京都)」が実施されています。京都大原記念病院グループからは、申し込みのあった52チーム260人が参加しています。

1チーム5人編成で、昨年は49チームが参加しうち46チームが無事故無違反を達成(達成率93.9%)するなどかつてない好成績を収めました。今年はそれを上回る成績を目指して、日々安全運転に努めています。

京都大原記念病院グループウェブサイト
公式Facebookのご案内

グループの取り組みなど日々、更新中!
自然災害等により何らかの影響が生じた場合は
こちらで情報発信します。ぜひこちらをご覧ください!



ウェブサイト



Facebook